

2019年5月25日

経済地理学会会長
松橋 公治 殿

経済地理学会著作賞選考委員会
委員長 川端 基夫

第9回経済地理学会著作賞 受賞候補者の推薦

経済地理学会著作賞選考委員会は、経済地理学会著作賞内規にもとづいて慎重な選考を行った結果、以下に示した候補者を評議会に推薦することを決定致しましたので、ここにご通知申し上げます。

選考結果

候補者 : 與倉 豊
候補著作: 『産業集積のネットワークとイノベーション』
(古今書院、2017年1月、320ページ)

推薦理由:

同じ産業集積の生成・発展メカニズムの解明をめざしつつも、アプローチを異にする伝統的な経済地理学と空間経済学との間には大きな隔たりが生じてきたことが学問上の課題となってきたことは周知の事実であろう。このような中、本書は両学の溝を乗り越えて産業集積研究を前進させた貴重な成果といえ、まずはこの点が高く評価できる。またこの研究により、伝統的な経済地理学の有効性と意義が示されたことも意義深い。

本書では、丹念な文献レビューによって、両学が有する課題・限界および相互交流の可能性を的確に整理し、伝統的な経済地理学におけるこれまでの研究蓄積や調査手法と、新鮮な定量的分析手法とをうまく接合した実態分析を行うことで、両学の交流の実現を成し遂げた。

産業集積研究への貢献としては、空間経済学がもっぱら産業集積「内」で発生する外部性によって集積のメカニズムを説明している点を問題とし、産業集積「外」の多様なネットワークが重層的に集積に与える影響に着目した点が指摘できる。また、そのキー概念であるネットワーク論自体の再検討を行ったことも評価に値する。

より具体的には、広域的なネットワークが集積のイノベーションの生成に影響を与えるメカニズムを定量的に検討し可視化した点、各地の産業見本市、異業種交流会、国際会議、ビジネスマッチング事業などのテンポラリークラスターが集積やイノベーションに果たす役割を定量的に分析してその構造を可視化した点などは、産業集積を巡る研究や議論に多くの新しい視角をもたらした。とくに、テンポラリークラスターの検討は、政府や自治体の関係者のみならず、その産業政策に関わる多くの経済地理学者に有益な示唆を与えている。

また本書は、関連領域の文献を幅広くサーベイしている点、貴重な分析資料の収集・発掘を行った点、新しい社会ネットワーク分析手法を使った点などにおいても評価ができ、それらが本書の説得力を高めると共に、今後の産業集積研究に多くの示唆を与えるものとなっていることも記しておきたい。

以上の理由により、経済地理学会賞選考委員会は、與倉豊会員を第9回経済地理学会著作賞候補者として推薦する。

経済地理学会著作賞選考委員会

影山穂波、鹿嶋 洋、川端基夫(委員長)、高柳長直、水野真彦、山口泰史